©沖縄タイムス　2016年07月02日　朝刊26面　記事数：1/1　<1/1枚>
ここにいるよ　沖縄子どもの貧困（５１）＝第４部　支援の現場から（１４）　子ども食堂（３）

食事や遊び 子に安心

ここにいるよ 沖縄 子どもの貧困 ㊿

第４部 支援の現場から〈14〉

子ども食堂③

特定の子 目立たせない工夫

南風原町兼城の一般社団法人カナカナで6月26日、地域の子どもたちに昼食と居場所を無料提供する「カナカナオープンカフェ・キッズDAY」が始まった。初回は流しそうめん。日曜の午後、幼児や小学生ら約40人が「うまーい」「もっとゆっくり流して」などと歓声を上げた。

子どもたちは竹のといを流れてくるそうめんを箸で器用にすくったり、時々混じっている野菜をスルーしたりしながら、わいわいと昼食を楽しんだ。町役場に置かれたチラシを見て訪れた親子連れもいた。

子連れで気兼ねなく利用できる「キッズレストラン」の営業場所を毎月1回、第4日曜の正午から午後3時、子どもたちに開放する。多様な子どもが出入りする機会をつくり、気になる子がいる場合、必要な支援につなげていく考えだ。

みんなで調理に参加できるたこ焼きやギョーザ作りのほか、金魚すくいや卓球大会などの遊びの要素も取り入れる。楽しんで食事や遊びに参加できるイベントを企画していく予定だ。

■　■

内閣府「沖縄子供の貧困緊急対策」予算を活用する町の「子ども元気ROOM」事業の一環で運営するが、あえて「子ども食堂」とは名乗らなかった。

松田かなえ代表(35)は「子ども食堂が悪いわけではないが、特定の子どもが通う場所という固定イメージを避けたかった」と理由を説明する。子ども食堂イコール貧困対策の印象が浸透しつつあるため、子どもが出入りしやすいようネーミングを工夫した。「貧困だけに限らず、休日に一人で過ごす子や困りごとを抱えた子が気軽に遊びに来られる雰囲気をつくりたい」

カナカナで流しそうめんを楽しむ子どもたち＝南風原町兼城

初日は綿あめ機も用意され、子どもたちの行列ができた。はしでくるくる巻く綿あめ作りに夢中になる子が多く、何度も列に並ぶ子もいた。

家庭の事情があり、親類の家で育ってきた女児は「もう4回目。あと1回並ぼうかな」と話し、友達とはしゃいでいた。みんなで一緒に食べ、一緒に遊ぶことで支援が必要な特定の子だけを目立たせない。引け目を感じることなく、自然な形で「食事」と「遊び」の安心を保障できるよう工夫されている。

■　■

カナカナは毎週金、土、日曜の3日間、必要な子どもたちに夕食と夜の居場所を提供している。町事業を受託し、5月からスタートした。現在、生活保護世帯の子など数人が利用し、学習支援も受けている。

土日は午後3時～10時だが、利用する子から「もっと早く開けて」と要望があった。月1回「キッズDAY」の日だけは正午から夜まで連続して利用できるようになった。現在は小学生以下が中心だが今後、中高生も巻き込みたい考えだ。

松田さんは「大好きな地元南風原のために何かがしたい」と力を込める。「民生委員の方々にも呼び掛け、地域とつながりを強めていきたい。さまざまな世代が集まる場所として、ここから新しい地域づくりができれば」。子どもの居場所を拠点とし、地域の未来を色い揃く。

（子どもの貧困」取材班・田嶋正雄）

＝随時掲載

記事に関するご意見、情報をお寄せください。
ファクス：098(860)3483　メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp